

実施要領 様式11(第13条関係)
【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成20年10月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0272701079
法人名	NPO法人双松福祉会
事業所名	グループホームわらび苑
所在地	三戸郡階上町大字角柄折字餅粟久保4-1 (電話) 0178-88-1461
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(平成20年6月21日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤 2人, 常勤換算 6.6人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(4)利用者の概要(6月21日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低	70歳	最高	95歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	美保野病院、小松内科、こんどうファミリー歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの敷地は広く、デイサービスセンターが併設されている。また、敷地内に背の高い木々が植えられているほか、敷地の外には寺院があるなど、自然豊かな場所となっている。

法人全体の理念のほかに、「笑顔を決やさず」「心かよう会話」「四季を楽しむ」という「三つの心」と称したホーム独自の理念を掲げており、全職員が理念の実践に向けて日々のケアに取り組んでいる。また、地域との関わりを意識した支援が行われており、ボランティアを受け入れたり、地域自主消防隊がホームの避難訓練に参加・協力してくれるなどの取り組みにつながっている。

職員は利用者個々の訴えや要望等を大切にしてケアを提供するよう心がけるとともに、趣味を楽しんでもらうなど、一人ひとりがその人のペースでゆったりと過ごせるよう配慮している。

感染症対応マニュアルを整備しており、必要に応じて見直し等を行っている。また、ホーム便りを通じて家族にも情報を提供したり、入り口に消毒液を設置して来訪者に予防を呼びかけるなどの取り組みも行っている。

【特に改善が求められる点】

ホーム独自の理念を掲げているが、全職員で話し合いを行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割等を盛り込むことに期待したい。

ボランティア等を受け入れる場合に備えて、守秘義務などに関することを説明資料としてまとめ、受入れ時にはそれを説明するなどの取り組みに期待したい。

職員の資格取得を推奨するなどの取り組みを行っているが、これまでの研修傾向等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成してはどうか。

日中は施設しないケアを実践しているが、無断外出時に協力が得られるよう、運営推進会議で呼びかけるなどの取り組みに期待したい。

摂取カロリーに配慮した献立を作成しているが、栄養士等の専門家から定期的に指導や助言を受けられる体制を整えてはどうか。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に職員間で課題等を共有しており、改善策を検討してサービスの質の向上につなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義や活用方法等を理解している。全職員で自己評価に取り組むことで、日々のケアのあり方について考え、新たな気づきを得たり、職員一人ひとりの意識改革につながっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、日々の取り組みや自己・外部評価の結果等を報告している。また、委員から積極的に意見を出してもらえよう、管理者は会議の進め方等を工夫している。運営推進会議で話し合ったことは職員に周知し、今後の運営につなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>たよりや面会時等を利用して日々の様子や金銭管理状況、職員の異動等を定期的に家族に報告している。また、面会時には家族に声がけし、意見等を話しやすい雰囲気を作るほか、事務室前に意見箱を設置したり、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するなどの取り組みも行っており、家族から苦情等が出された場合は職員間で話し合うなど、苦情処理手順に従って対応することとなっている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣住民で組織されているボランティアグループが花植えやホーム行事に参加してくれている。また、近隣の小学校との交流を図ったり、地域自主消防隊が避難訓練に参加するなど、地域との良好な関係が築かれている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>法人の理念のほかに、全職員で話し合って作成したホーム独自の理念を掲げている。職員が理念をいつでも心に留めてケアを提供できるよう、ホールや事務室等に掲示している。</p> <p>研修等を通して全職員が虐待について理解を深めており、管理者が職員の日々のケアを観察するなど、虐待のないケアを実践している。また、虐待を発見した場合の対応をマニュアルとして整備し、全職員に周知している。</p> <p>職員の異動等を行う時は、利用者に与える影響に配慮し、職員間の引継ぎや利用者への説明を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、本人や家族、医療関係者、ケアマネジャー等から情報収集を行い、利用者の負担が最小限になるよう支援している。</p> <p>職員は「みんな家族の一員」であることを認識しており、利用者一人ひとりの喜怒哀楽を共感するよう努めている。また、得意分野では力を発揮してもらおうなど、利用者職員が共同しながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>アセスメントや日々のコミュニケーションの中から、利用者及び家族の思いや意向を把握している。また、職員間の話し合いを行った上で、一人ひとりに合った介護計画を作成している。</p> <p>利用者のこれまでの受診状況を把握しており、職員付き添いのもとでかかりつけ医での受診を支援している。また、協力医との連携を図ったり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、いつでも対応できる体制を整えている。受診結果はたよりや電話等でその都度家族に報告している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>全職員で利用者への声がけや接し方について話し合いを行っており、介助時には一人ひとりの羞恥心等に配慮した対応を心がけている。また、新聞を読む、テレビを見る、会話をする、趣味を楽しむなど、利用者が思い思いの時間をゆったりと過ごせるよう、個々の生活リズムを大切にケアを提供している。</p> <p>共用空間には畳のスペースや掘りごたつ、テーブル等が設置されている。また、居室にはテレビ等の生活用品や写真などの馴染みの物が持ちこまれており、利用者が居心地良く過ごせる空間となっている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域福祉に貢献したいとの思いから設立されたホームであり、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。法人全体の理念のほか、職員間で検討したホーム独自の理念を作成しているが、地域との関わりに関することを盛り込むまでには至っていない。	○	全職員で話し合いを行うなど、現在の理念に地域密着型サービスの役割を盛り込むことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホールや事務室に掲示するなど、全職員が理念を理解し、それを日々のケアに反映できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民で組織されているボランティアグループが花植えやホーム行事に参加してくれている。また、近隣の小学校との交流を図ったり、地域自主消防隊が避難訓練に参加するなど、地域との良好な関係が築かれている。ボランティア等を受け入れる際は、職員は利用者のプライバシーに配慮して対応しているが、訪問者に注意事項を話すなどの取り組みは行われていない。	○	ボランティア等を受け入れる場合に備えて、説明資料として守秘義務などに関する事項をまとめ、受入れ時にはそれを説明するなどの取り組みに期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義や活用方法等を理解している。自己評価に全職員で取り組むことにより、日々のケアのあり方について考え、新たな気づきを得るとともに、職員個々の意識改革につながっている。また、外部評価の結果を基に職員間で課題等を共有しており、改善策を検討してサービスの質の向上につなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回の割合で開催しており、委員の出席率は高い。会議では日々の取り組みや自己・外部評価の結果等を報告している。また、委員の意見を引き出せるよう、会議の内容や進行に工夫している。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年2回発行している広報誌を行政に送付するほか、担当課職員に運営推進会議のメンバーになってもらうなど、ホームの取り組みや評価結果等を定期的に報告している。また、質問や問題等がある場合は、その都度助言・指導を受けるなど、行政との連携が図られている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関する外部研修に参加しており、内部研修等を通じて全職員に周知している。現在は制度を利用している方はいないが、利用を希望する方がいる場合には、地域包括支援センター等との連携を図って対応する仕組みとなっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は積極的に内部・外部研修を受講するなど、虐待防止法に関する理解を深めており、全職員が「身体及び言葉等の虐待は絶対行わない」との認識を持っている。また、管理者は職員の日々のケアを観察するなど、虐待を未然に防ぐよう努めており、これまで虐待は行われていない。虐待を発見した場合の対応をマニュアルとして整備し、研修等を通じて全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明書を基に利用者や家族に方針等を説明し、同意を得ている。また、家族等が疑問などを話しやすい雰囲気作りに努めている。契約改訂時や退居時にも説明しており、退居時には利用者や家族、医療機関で話し合いを行う仕組みとなっている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	たよりや面会時等を利用して暮らしぶりや職員の異動などを家族に報告している。また、金銭管理状況は出納簿に記録しており、領収書を添付して月1回報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時は声がけするなど、話しやすい雰囲気作りに努めている。また、事務室前に意見箱を設置したり、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示するなどの取り組みも行っている。家族から苦情等が出された場合はホーム内で話し合うなど、苦情処理手順に従って対応する仕組みとなっている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は、異動や交代による利用者への影響を理解しており、異動等は必要最小限にとどめている。また、異動等を行う時は利用者に説明するとともに、職員間での引継ぎを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者や管理者は職員の育成の重要性を認識しており、内部・外部研修へは積極的に職員を派遣している。また、職員の資格取得も推奨するなど、職員の資質や意識の向上を図っている。研修受講後は報告書を作成して会議等で報告会を行うなどの取り組みを行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	これまでの研修傾向や職員の経験・希望等を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、レクリエーションや研修会に参加するなど、同業者との交流を深めており、職員の意識やケアサービスの質の向上につなげている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを開始できるよう、本人や家族、医療関係者、ケアマネジャー等から情報収集を行い、利用者の負担が最小限になるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は「みんな家族の一員」であることを認識しており、利用者一人ひとりの喜怒哀楽を共感するよう努めている。また、得意分野では力を発揮してもらうなど、利用者や職員が共同しながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや日々のコミュニケーションの中から一人ひとりの思いや意向を把握している。また、面会時に家族から情報収集したり、ミーティングで職員間の話し合いを行うなどの取り組みも行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の要望・意見を聞くとともに、全職員の気づきや意見を出し合った上で、計画作成担当者が作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行うほか、利用者の状況等に変化がある時は随時の見直しを行っている。見直し時は利用者の状態を観察したり、利用者や家族の意見を聞くなどの再アセスメントを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物等、利用者が行きたい場所に出かけるほか、通院時の送迎を行うなど、利用者や家族の希望や要望に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援するほか、協力医による月1回の往診を受けたり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、いつでも対応できる体制を整えている。また、受診結果はたよりや電話等でその都度家族に伝えている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化のケアに対応しており、指針を整備して契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、職員間でも方針が共有されている。状態変化等がある時は随時の話し合いを行う仕組みとなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員で利用者への声かけや接し方について話し合いを行っており、排泄介助や入浴時等では一人ひとりの羞恥心に配慮したケアを提供している。また、職員は個人情報保護法について理解しており、個人ファイルは他の利用者や訪問者の目に付かないよう、事務室に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	趣味を楽しむ、新聞を読む、テレビを見る、会話するなど、一人ひとりがゆったりと、その人のペースで過ごしている。また、その日の利用者の状態等に応じた柔軟なケアを心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時のアセスメントや日々の会話から一人ひとりの好き嫌いを把握しており、希望を取り入れた献立となっている。また、調理等は利用者到手伝してもらったり、職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、会話や食べこぼし等へのサポートをしながら食事を摂るなど、和やかな雰囲気となるよう工夫している。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回の入浴となっているが、希望によりいつでも入浴できる体制となっている。入浴時は利用者の身体状況に配慮しながら支援している。また、入浴を拒否する利用者には無理強いすることなく、タイミングを見ながら声がけする等の対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント等から一人ひとりの生活歴や特技等を把握しており、花壇や菜園の水やり、草取り、新聞の受けとり、食後の片付け等、個々合った役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地内外の散歩や市街地への買い物、四季の祭りや行事に出かけるなど、利用者の希望を聞きながら積極的に外出する機会を設けている。また、外出時には利用者の身体状況等に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は身体拘束に関する研修会を受講するなど、その内容や弊害について理解しており、拘束を行わないケアを実践している。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関等は日中施錠しておらず、自由に入出入りすることができる。利用者の外出傾向を察知できるよう職員が目配り気配りしており、察知した時は職員が付き添う等の対応を行っている。しかし、無断外出時に近隣からの協力が得られるような働きかけは行われていない。	○	運営推進会議で呼びかけるなど、無断外出時の近隣からの協力体制を整えてはどうか。
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域自主消防隊の協力を得ながら、昼夜を想定した避難訓練を年3回行い、利用者の安全確保に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を把握し、記録している。献立は摂取カロリーに配慮して職員が作成しているが、栄養士等の専門家から定期的に助言を受けられる体制にはなっていない。	○	栄養バランスや摂取カロリーの確認のためにも、保健所や医療機関の協力を得るなど、栄養士等から定期的に指導や助言を受けられる体制を整備することに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが作成されており、研修会等を通じて新しい情報が入った時などは随時の見直しを行っている。また、たよりを通じて家族にも感染症に関する情報提供を行うほか、入り口に消毒液を設置し、来訪者に消毒を呼びかける等の取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには畳のスペースや掘りごたつ、テーブル等が設置されているほか、庭には季節の草花を植えるなど、家庭的な雰囲気となっている。また、職員が立てる物音は騒がしくなく、自然光が十分に入るなど、快適な空間である。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや冷蔵庫等の生活用品のほか、ぬいぐるみや写真、小物等の馴染みの物が持ち込まれている。また、手作品を飾るなど、居心地のよい空間作りが行われている。		

※ は、重点項目。